

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070500667
法人名	医療法人 小倉蒲生病院
事業所名	グループホーム しあわせ
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市小倉南区徳力6丁目1-25 (電話) 093-965-6170

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6		
訪問調査日	平成19年11月14日	評価確定日	12月21日

【情報提供票より】(平成19年10月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年1月31日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	8 人	常勤	7人, 非常勤 6人, 常勤換算 5.7~5.8

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2階建ての1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	(水光熱費)15,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,500円			

(4) 利用者の概要(10月15日現在)

利用者人数	8名	男性	0名	女性	8名
要介護1	3名	要介護2		3名	
要介護3	2名	要介護4		0名	
要介護5	0名	要支援2		0名	
年齢	平均 83.2歳	最低	77歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小倉蒲生病院 / 北九州総合病院 / あおきクリニック / かんざき歯科
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成12年に開設された「グループホーム しあわせ」は、長い歴史の中で、法人母体である医療法人との緊密な連携のもと、入居者一人ひとりが地域とのつながりの中で、個別の支援を提供しているホームである。モノレール沿線から一步入った閑静な住宅街の中には、公園や保育所などがあり、入居者の毎日の散歩の中で立ち寄りの場となっている。以前、会社の独身寮だった建物を改造したホームは、玄関・2階の居室へ上がる階段・トイレなどに手すりをつけるなど安全管理には、特に配慮がなされている。入居者一人ひとりが自分らしい暮らしができる「住まい」として、アットホームで穏やかな時の流れが感じられるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での改善課題については、全職員で検討し改善に向けての取り組みを行った。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	前回の外部評価で指摘された項目を見直し、外部評価の意義について資料などを用いて振り返り、ミーティングを行うなど全職員で取り組んでいる。
	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	定期的に町内会会長・地域包括支援センター・地域交流センター・入居者・家族代表などの参加で開催されている。活動報告・行事案内・意見交換などを通して、出された意見は運営に反映していくように努めている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	苦情・相談に関するポスターを玄関や食堂に掲示したり、苦情箱を設置している。家族の来所や運営推進会議の機会には、入居者・家族が意見や要望を自由に言っていたるように、意見が言える関係づくり・雰囲気づくりに努めている。また、出された意見や要望は、ホーム運営に活かしサービスの質の向上に結びつけている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	運営推進会議を通じて地域行事への参加(盆おどり・人権フェスティバル・文化祭への作品出品)を行っている。また、母体である医療法人のボランティアの中高校生と挨拶を交わす関係を築いている。散歩の途中では、幼稚園などに立ち寄って交流したり、地域の方々となじみの関係を築いている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人その人のあるがままを受け入れ個性を尊重し、安心と信頼と満足を届け、認知症を持たれる本人と家族の支援を通して、更なる地域貢献を目指すことを理念に掲げている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関に掲示し、各職員の名札の裏にも書かれている。申し送りの際には、理念に基づいた支援ができているかを確認し合っている。		
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議を通じて、地域の行事への参加(盆踊り・人権フェスティバル・文化祭への作品出品)を行っている。また、母体である医療法人のボランティアの中高生と挨拶を交わす関係を築いている。散歩の途中では、幼稚園などに立ち寄って交流したり、地域の方々となじみの関係を築いている。		認知症ケアに関して、グループホームの実績を活かし、地域の方々にアドバイスや相談を行うなど、認知症の理解を高めることが求められる。
では、					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で指摘された項目を見直し、外部評価の意義について資料などを用いて振り返り、ミーティングを行うなど全職員で取り組んでいる。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に町内会会長・地域包括支援センター・地域交流センターの職員・利用者・家族代表などの参加で開催されている。活動報告・行事案内・意見交換などを通して、出された意見は運営に反映していくように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行事参加などで地域交流センターの協力を得ているが、その他は今のところ連携は取れていない。		市町村の担当窓口相談や研修の情報を得るなど連携を図ることが求められる。
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	現在、成年後見制度の利用はない。全職員が必要に応じて相談・説明ができるように、母体である医療法人での研修会やホーム内での勉強会に参加することで周知を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に母体である医療法人が作成している「蒲生タイムズ」で暮らしぶりや健康状態・行事での様子を写真などで知らせようとしている。また、緊急時や必要時には電話で連絡を取るようしている。ホーム便りは現在作成準備中である。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情に関するポスターが玄関や食堂等見やすい場所に掲示されている。玄関に苦情箱が設置されているが、入れる人はいない。家族が来所された折に、職員の方から声をかけるなど、コミュニケーションを大切にしながら、自由に意見等が言えるような雰囲気作りが心にかけている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職や母体である医療法人への異動はあるが、異動に関しては、入居者とのなじみの関係を第一に配慮しながら行っている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	採用に関しては、性別・年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。基本的にはヘルパー2級以上の有資格者・料理好きな人・高齢者が好きな人を優先的に採用するようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	人権研修に参加し会議などで報告し、意見交換をするようにしている。入居者と職員が対等な関係を保ちつつ入居者に対する尊厳の気持ちを忘れないように毎日のケアの中で周知徹底するようにしている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	母体の医療法人である研修や外部研修・新人研修などに積極的に参加しており、研修記録がある。参加できなかった職員に対しての伝達研修も行い、全職員に周知を図っている。また自己実現のためのサポート体制もできている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	毎月グループホーム連絡協議会の会議に参加し、事例検討・北九州市内の行事案内・実習の受け入れ・他の施設からの見学・運営上の悩み等について意見交換をし、サービスの質の向上に努めている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居前にご本人や家族と共に見学に来られた際、ゆっくりと話を傾聴したり、他の入居者の方とお茶を飲んだり馴染めるように配慮している。又、病院からの入居の場合は、事前に情報提供書で確認するようにし、不安な事・困っている事について家族・介護支援専門員・職員と共に馴染めるよう配慮している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者にとって何をしたら楽しめるか、何を話せば喜ばれるかを考え支援している。また、人生の先輩として若い職員にアドバイスをされる事もあり、入居者と職員と一緒に楽しみ、笑い合う関係を築いている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	入居時に家族や介護支援専門員などから生活歴や生活環境についての情報を聞き取り、希望や意向を把握するようにしている。本人にとっての最善の支援を家族と共に検討しケアプランに反映している。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	母体である医療法人から入居される場合は、向精神薬を服用している場合があり、1週間・24時間のチェックを行い、それに基づいて本人・家族とが話し合い介護計画を作成している。		入居者一人ひとりが、その人らしく暮らせるように、本人・家族の意見を聞きながら、関わる職員で話し合い介護計画に反映していくことが大切である。また服薬に関しては、その副作用に関して、観察・記録していくことが求められる。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	入居者の状態変化の有無や本人・家族の希望・要望にそって見直しを行っている。定期的には3ヶ月毎の見直し・カンファレンスを行っている。新たな問題が生じた場合は、その都度モニタリングを行い、見直しを行うなど、現状に応じた介護計画を作成している。記録を工夫されると、見直しの際に参考になるとと思われる。		記録は、重複しているところは省き、ポイントを絞るなど工夫が求められる。問題行動については、皆で気づいた点をメモしておくなど、見直しの際に役立つように記録の取り方を検討することが望まれる。
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	本人や家族の要望があれば、個別に支援している。外出や買い物(日用品・洋服等)に同行したり、母体である医療法人のボランティアにも来てもらうなど、個々の満足を高めるように、柔軟な支援が行なわれている。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	本人や家族の希望を大切に、かかりつけ医への受診は家族に代わって職員が支援している。受診結果や服薬に関しての注意点など家族に説明し、情報交換も密に行っている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	ホームとしては、ターミナルケアを行いたいと考えているが、現在の建物の状況では機能的に無理なので、希望される本人・家族には説明し、早めに対応ができるように話し合いを行っている。医療との連携を含め、体制づくりに期待したい。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	介護日誌や個別のファイルは、目の届かないところに保管している。また、個人の尊厳を傷つけないように、言葉かけや対応には、日頃から注意している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていないが、食事はなるべく一緒にするようにしている。散歩・買い物・カラオケ・洗濯物の片づけ・食器の片づけなど、入居者の希望とペースに合わせた個別の支援を行っている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	入居者は自発的に、食事の準備・配膳・片づけなどを行っている。食事は職員も一緒に、楽しく会話しながら、賑やかな食事時間となっている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	その日の体調や様子を見て入浴するようにしている。希望により気の合う友人同士で入浴される方もいる。季節によっては、菖蒲湯・ゆず湯なども楽しめるようにしている。現在、温泉行きを計画中である。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	アセスメントから入居者の興味あることを引き出し、残存能力を活かした介護計画を作成している。カレンダー作り・雑巾作り・裁縫・ビデオ鑑賞・おやつ作り・園芸など得意分野は入居者から職員がそのノウハウを教えてもらう事もあり、入居者の能力が発揮できる場がある。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	入居者の希望に応じ、午前と午後散歩に出かけるようにしている。近隣の公園・紫川の鯉の鑑賞・買い物などに出かけている。ハンバーガー店・ファミリーレストランなどへのドライブを兼ねた外出も柔軟に対応している。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	玄関のドアを開けるとチャイムが鳴るようにしているので、鍵を掛けないケアを実践している。チャイムが鳴ると、職員がすぐに駆けつけるなど、サポートする体制がある。入居者が突然外出される場合は、職員が寄り添い外出をサポートしている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	避難訓練は定期的に夜間想定も含め行っている。地域の協力は、現在、協力要請中であり、地域との連携を高める努力を行っている。木造家屋なので、火のもとの点検は小まめに行ない、災害に関するマニュアルも作成され、会議などで全職員に周知されている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	1日の栄養摂取量は1500cal・水分摂取量は1500ccを目安にしている。献立は入居者の嗜好調査を反映したものになっており、定期的に母体である医療法人の管理栄養士がチェックしている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	玄関周りの花壇には季節の花々が植えられ、共用空間にも生花や絵画・入居者の作品が飾られ、季節感を感じる配慮がなされている。多目的に利用される和室や大きなソファが置かれたリビングでは、好きなテレビ番組を観たり、入居者同士で談話を楽しまれる姿があり、居心地の良い空間となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	各居室には、使い慣れた日用品や家具・仏壇・テレビなどが持ちこまれ、入居者ごとの個性ある居室となっている。また、自分の居室として居心地良く過ごせる工夫がみられる。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			